

令和6年度 小金井市地域課題分析・評価シート（きた エリア）

I. 地域課題と考えられる課題

- ①地域とのつながりがなく、孤立したまま困難に直面する高齢者が増えている。【総・小】
- ②高齢になると起こりうる困りごとへの備え、急なけが、疾病、災害など、いざという時の備えが十分にできていない。【総・小・二】
- ③核家族が多いため、子ども世代にも、親の加齢に伴う変化やそれにより発生しうる困りごとについての知識がなく、介入が遅れがちである。【総・小】
- ④必要な情報があまねく届いていないため、使えるサービスを活用できずにいる。【総・小・他】
- ⑤スマホ、オンラインで提供される便利なサービスを使いこなせる人が少ない。【総・小・他】
- ⑥リーダーになれる人材が不足している。【小・他】



地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

- ①今年度は複数のシニアの活動団体から、「高齢になり退会する会員が増える一方で、新規入会がなく、活動継続が困難になっている」と相談を受けた。活動の周知の協力や、新規参加者を募るためのイベントの企画など提案しているが、課題解決には至っていない。
- ②必要な情報をなかなか入手できないという課題と、情報は得てもそこから備えることやなかなか行動に移せないという課題がある。情報を得てから行動に移すまでの後押しについての検討が必要である。
- ③出産年齢が上がり、突然ダブルケアが必要になる家庭が増えている。子ども世代にも介護保険について周知するべく、2層協議体で連携する子育てサークルにおいて、介護保険の基本講座を実施した。今後も現役世代とつながる機会を持ち、情報提供を行う。
- ④梶野公園まつり、わくわく農園感謝祭、道草市といった圏域内で開催されるイベントで、包括や市の事業を周知するほか、地域の協議体、会議体を通して連携のある事業所、企業、町会、老人会などにも、都度情報提供をしている。周知先は着実に増えているが、シニアの場合は情報を得て、即、備えるという行動にはつながらないという課題がある。
- ⑤スマホ、特にLINEアプリのトークや無料通話を活用している方が増えているが、ネットからの情報には危険なものも多く、安全で便利なサービスの見極めが困難になっている。スマホ、オンライン活用を勧めづらい状況がある。
- ⑥介護予防ボランティア講座、認知症ステップアップ講座の受講者のなかに、包括の事業に関心を持ってくれる方が数名あり、本人の意向に沿って活動につないだがリーダー不足の状況に改善はない。

根拠情報

【二】：ニース調査 【小】：小地域ケア会議（2層協議体）
【個】：個別地域ケア会議 【総】：総合相談
【他】：その他（懇談会）



II. 考えられる背景（高齢者等要因）

- 新たな活動を始めるきっかけがない。（①）
- 情報の入手先がわからない。情報への感度が低い。（①、②、④、⑤）
- 対面以外のコミュニケーションが苦手である。（②、④）
- 根気よく取り組むのが難しい。（②、⑤）
- 子どもに迷惑をかけたくない気持ちと自らのプライドから、なかなか周囲に相談できずにいる。（①、②）
- 自ら積極的に動く、新しいことに取り組むのは億劫。（①、②、④、⑤、⑥）
- 自らが活動の中心になるのは荷が重い。（⑥）
- 収入が年金だけでは、長い老後が経済的に不安。（②、⑥）



III. 考えられる背景（環境要因）

- コロナで中断したご近所付き合いが、あまり再開されていない。町会の加入率も低下傾向。
- 未婚化の進んだ世代が老後を迎え、一人暮らし高齢者が増加傾向。
- 医療、介護などの制度維持のために高齢者の負担が増している。
- 寿命が伸び、人生100年を想定した老後のプランが必要になっている。
- メディアからの情報の氾濫で、かえって正確な情報を入手しづらい。情報を見極めが難しい。
- スマホやネットなどを気軽に継続して学べる場所がまだ少ない。
- 地域の活動のリーダー同士が気軽に話し合える場が少ない。

※ 地域課題とは：地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和6年度 小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（きた エリア）

活動目標

- ①シニア層が知っておくべきテーマについて、「きた包括暮らし講座」ほかの講座、イベントで啓発。包括とまだつながっていない層に届けるために、地域住民、公民館活動グループほか、新たな連携先を開拓する。
- ②シニアだけでなくすべての世代に関心の高い「防災」をテーマに、地域住民と協力しながら多世代を対象にしたイベント、講座を実施する。
- ③地域活動を充実させるために、リーダー同士の情報共有、連携を支援する。
- ④地域活動の担い手不足を補うべく、主に2層協議体の場において、多世代や分野横断で支え合う仕組みを作っていく。



活動目標の達成状況（結果評価）

- ①「きた包括暮らし講座」は防災をテーマに桜町自治会・自主防災会と連携のうえ計3回実施し、計85名の参加があった。この他、リハ職巡回事業を3団体（うち新規1団体）に対し計5回、ACP普及啓発事業を2団体に計2回調整した。
- ②防災目的のイベント「梶野公園まつり」では事務局を担当、「減災フェスタ」では小金井市シルバー人材センターと連携し、みまもりあいアプリ普及イベント、家具転倒防止器具等取付事業の周知を実施。「わくわく都民農園感謝祭」では地域安全課と連携して家具転倒防止器具取付事業の周知を行った。
- また、きた包括防災講座参加者の中で、地域防災に関心の高い方々と2層協議体を開催。講座の企画・運営にもご協力いただく。来年度は任意団体として新たな取り組みを展開する予定。
- ③さくら体操自主グループ連絡会を開催。また、劇団の理事と外国人支援団体のスタッフ、スマホ研究会と障害者支援団体などをつなぎ、連携によって新たな活動の立ち上げを、包括も加わって検討した。
- ④2層協議体「梶野町ないまぜの会」に新たに参加した事業所と連携し、「梶野町オレンジカフェ」を立ち上げた。

手段	R5	R6	R7	結果
市内の地域活動を発掘し情報提供を行う。引き続き男性が参加しやすい活動を意識しながら情報収集するほか、男性の主催者、参加者へのインタビューも実施。男性の活動参加のきっかけを探る。				○今年度発行の「応援マップ」に新たに発掘した6団体を掲載。○翁味会、睦会など、男性の参加が多い団体から継続支援の相談を受け、対応中。○緑町を拠点に活動する「現代座」の観客に一人で来場するプレシニアの男性が多いことを把握。来場者と役者との交流会を提案。開催の支援も行った。
認知症、介護、終活、お金の管理など、シニア層が知っておくべき事柄について、「きた包括暮らし講座」、認知症カフェなどで取り上げ啓発する。地域のサロン等での講座開催支援も継続。				○今年度は多世代に関心の高い「防災」に力を入れた。「きた包括防災講座」には、市内全域から幅広い世代の参加があり、シニア以外の層への包括の周知になった。 ○「梶野町オレンジカフェ」立ち上げにより、きた包括から最も遠い梶野町エリアの住民が、より気軽に包括からの情報を得られる機会を作ることができた。 ○さくら体操自主グループ、地域のサロンなどに対し、講座の開催支援を実施した。
年明けより各地で地震が頻発しており、世代を超えて防災への意識が高まっている。防災をテーマに地域住民と協力しながら、多世代が参加できるイベント、講座の開催に取り組むことで、地域住民の「つながり」作りを支援する。				○包括で防災講座を開催するほか、7年2月より活動開始した「第三小学校避難所運営協議会」に継続的に参加。 ○そのほか、地域の防災力を高めるためには、地域住民が町会活動に関心を持つことが重要と考えられることから、本町2丁目会、緑町第2町会、緑町4丁目町会、桜町自治会などの防災への取り組みについて、公式LINE等を通して周知を行った。
応援ブック・マップ、その他包括からのお知らせを、高齢者個人のほか商店、事業所、サロン、老人会などに広く配布する。新しい資料をその都度スムーズに配架してもらえよう、常設コーナーの設置に向けて、企業、商店等との連携を強化する。				○イトーヨーカドー武蔵小金井店あんしんサポートセンター、地域の薬局などに都度ちらしの配架をお願いしたり、緑センターにはシニアコーナーを新たに設置してもらい包括、介護福祉課からのお知らせを常設している。 ○市民掲示板が使用できないことも多いため、本町2丁目町会、緑町4丁目町会、桜町自治会の掲示板を、必要時に借りている。
シニア層からの新たな人材確保が難しいなか、地域の活動の継続のため、さくら体操自主グループのほか、サロン等の地域活動についても、連絡会（2層協議体）、勉強会開催等により支援する。				○さくら体操自主グループ連絡会を1回開催した。サロンリーダー連絡会開催も検討したが、日程調整が困難のため、開催を見送った。
関係機関、企業、商店の協力を得て、きた包括LINE公式アカウントの一層の普及を目指す。シニアを支える若い世代にも届けられるよう、LINE以外のサービスの利用を検討するほか、情報発信についても地域の協力者と連携する方法を模索する。				○きた包括公式LINEの年度末の登録者は200名ほど。LINEを見ての講座申し込みが着実に増加している。 ○小金井市観光まちおこし協会の協力を得て、まるん通信や、公式Youtubeチャンネル「突然ニュース☆コガネイ」から包括の講座、イベントの情報を発信いただき、これまでは異なる層に情報が届けられた。 ○防災講座は、2層協議体メンバー各自のFacebook、Instagramのアカウントから情報発信するなど、現役世代を中心に幅広い層への周知につなげる。
上記以外にも、2層協議体や個別ケア会議の開催により、地域課題の把握や解決に努める。				○以前より開催の「ないまぜの会」、さくら体操リーダー連絡会に加え、防災をテーマにした2層協議体、「梶野町オレンジカフェ」立ち上げのための2層協議体を新たに開催。 ○個別ケア会議では、要介護の方が生きがいを持てるよう、本人の能力が活かされるボランティア活動を調整した。

※ 活動目標とは：ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えられる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※ 手段とは：この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

令和7年度 小金井市地域課題分析・評価シート（きた エリア）

I. 地域課題と考えられる課題

- ①地域とのつながりがなく、孤立したまま困難に直面する高齢者が増えている。【総・小】
- ②高齢になると起こりうる困りごとへの備え、いざという時の備えが十分にできていない。【総・小・二】
- ③核家族が多いため、子ども世代にも、親の加齢に伴う変化やそれにより発生しうる困りごとについての知識がなく、介入が遅れがちである。【総・小】
- ④町会の加入率が減少傾向にある一方で、災害が相次いだことから、共助に向けての地域づくりに関心を持つ人も増えており、その連携のサポートが必要。【小・二・他】
- ⑤人材不足、会場不足などで、地域活動の継続が困難になっている。【小・他】

根拠情報

- [二]：ニーズ調査 [小]：小地域ケア会議（2層協議体）
- [個]：個別地域ケア会議 [総]：総合相談
- [他]：その他（懇談会）

II. 考えられる背景（高齢者等要因）

- 自ら積極的に動いたり、新しいことに取り組むのが億劫。（①、②、⑤）
- 情報の入手先がわからない。情報への感度が低い。（①、②）
- 自らの老いを受け入れることが難しい。（②）
- 子どもに迷惑をかけたくない気持ちと自らのプライドから、なかなか周囲に相談できずにいる。（①、②）
- 収入が年金だけでは、長い老後が経済的に不安。（⑤）

地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

III. 考えられる背景（環境要因）

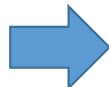
- コロナで中断したご近所付き合いが、コロナ前の水準には戻っていない。町会の加入率も漸減している。
- 未婚化の進んだ世代が老後を迎え、一人暮らし高齢者が増加傾向。
- 親との同居、介護の経験がなく、老いがどういうものか知らないシニア世代が増えている。
- 医療、介護などの制度維持のためにシニア世代の負担が増している。
- 寿命が伸び、人生100年を想定した老後のプランが必要になっている。
- メディアからの情報の氾濫で、かえって正確な情報を入手しづらくなっている。情報の見極めが難しい。
- 地域活動に取り組む人材が不足しており、それぞれが自身の活動の継続で手一杯で、活動について発信したり、共有したりする余力がない。

※ 地域課題とは：地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和7年度 小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（きた エリア）

活動目標

①シニア層が知っておくべきテーマについて、「きた包括暮らし講座」ほかの講座やイベントで啓発するほか、団体からの要請に応じて講座開催の支援を行う。
 ②シニアだけでなくすべての世代に関心の高い「防災」をテーマに、地域住民と協力しながら「共助」につながる取り組みを展開する。
 ③地域活動を充実させるために、リーダー同士の情報共有、連携をサポートする。
 ④地域活動の担い手不足を補うべく、主に2層協議体の場において、多世代や分野横断で支え合う仕組みを作っていく。



活動目標の達成状況（結果評価）

手段	R6	R7	R8	結果
市内の地域活動でまだ把握できていないものを幅広く発掘し、公式LINEでの紹介や応援ブックへの掲載を行う。これにより住民の地域活動への参加を促していく。				
シニア層が知っておくべき事柄について、「きた包括暮らし講座」、認知症カフェなどで取り上げ啓発する。地域のサロン等での講座開催支援も継続。				
世代を超えて防災への意識が高まっている。防災をテーマに地域住民と協力しながら、多世代が参加できるイベント、講座などを開催することにより、「共助」の基盤となる地域づくりに取り組む。				
応援ブック、マップ、その他、市・包括からのお知らせを、広く配布する。多世代に周知できるよう、紙媒体での提供、公式LINEでの周知に加え、SNSも活用する。SNSからの情報発信については、包括と連携のある現役世代やまちおこし協会などにも協力してもらうことで、現役世代含め、幅広い層に包括を知って頂けるようにする。				
地域活動の周知、人材の発掘、会場となる地域資源の発掘を通して、地域活動の立ち上げや、安定した運営をサポートする。				
上記以外にも、2層協議体や個別ケア会議の開催により、地域課題の把握や解決に努める。				

※ 活動目標とは：ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えられる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※ 手段とは：この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

令和6年度 小金井市地域課題分析・評価シート（みなみ エリア）

I. 地域課題と考えられる課題

1. (総)※孤立しがちな高齢者へのインフォーマル支援が少ない
※閉じこもりがちな独居・高齢世帯・高齢男性
2. (小)(他)住民どうしのつながりが少ない
3. (小)(他)コロナ禍で※対面での情報手段が弱くなっている
※地縁組織・近隣住民同士の対面活動自粛による身近な情報の減少。また、感染対策が5類に緩和され、高齢者毎で自粛対応に濃淡が観られるようになってきている。

根拠情報

- [二]：ニーズ調査 [小]：小地域ケア会議・2層協議体
[個]：個別地域ケア会議 [総]：総合相談
[他]：その他（懇談会など）

II. 考えられる背景（高齢者等要因）

- ① 外出する機会が少ない
- ① 認知面の低下（MCI）により困りごとが増える
- ①② ちょっとした相談をできる相手が近隣にいない
- ①② 他者の支援を拒否する
- ②③ 困りごとに対して有効な情報が分からない
- ①②③ 今も残る感染症による自粛や周囲への配慮
- ①②③ 多様な情報手段への対応能力低下

地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

1. (総)認知カフェの運営支援／①住民、JKK、包括によりR5.4より認知カフェが隔月開催で継続中。住民主体化がテーマだが参加者から主体的にやることは難しい（やる人がいない、今の自治会役員はやる事が多く手が回らない）との声あり。今後継続していくためにボランティア、JKK、包括で話し合い運営を検討。②**貫井住宅さくら体操自主サークル運営支援**／毎週1回継続中。参加者のロコミで住宅の住民以外の地域住民も参加。参加者からスマホの困りごとの相談があり、来年度出張スマホ相談会を開催予定。困りごと等が出てくるので定期的に包括が来てほしいとの声があり、今後も運営支援を継続。**天神ポッチャの会運営支援**／涼風デイの立ち上げ支援もありR6.4より地域住民による月1回の自主開催が継続中。参加者同士で連絡先を交換し、住民同士のつながりができている。包括は後方支援（チラシ作成や、体操をやりたいとの声があがった際に一緒に調べたり話し合いをしながら対応）を行っており、今後も後方支援を継続。**(総)(小)(他)お元気サミット生活支援企画「レッツ！地域デビュー」の開催**／サロン連絡会のサロン（4つ）や地域グループが複数参加。お元気サミット後に少人数ではあるが新規参加者が増えた団体もあった。
2. (小)(他)スカイコーポラス/ソライワ専門委員会の定着／住民相互が見守りあう活動の月例化、必要時に支援。(小)(他)サロン連絡会（二層協議体）／令和6年度より課題検討の場に移行。お元気サミットの参加、参加後の振り返りなどの共有を行った。リハ活合同事業も実施。参加者からの継続希望あり。
3. (小)(他) **みなみ包括公式LINEアカウント情報発信**／高齢者向けお役立ち情報のオンライン発信。高齢者のスマホLINEユーザーやCMなどに情報を発信。**包括ニュース継続発行**／圏域内の自治会・町会、民生委員、通いの場団体、要支援・事業対象者、公共施設、医療・介護関係機関などへ広く配布。包括の情報発信ツールとして定着。（郵送代値上がり を考慮し、令和6年度10月から3ヶ月に1回の発行に変更）

III. 考えられる背景（環境要因）

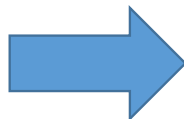
- ①② 高齢者（特に高齢男性）の社会参加の場が少ない
- ② 認知機能の低下に気づく人がいない
- ② 本人の生活歴・意向を知っている人がいない
- ①② 本人は困っていない
- ③ 情報過多の中で必要な情報の集め方がわからない
- ①② 社会の多様化に加え感染症により個別化が進んでいる
- ①②③ コロナ禍で社会資源へのアクセス機会低下

※ 地域課題とは：地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和6年度 小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（みなみ エリア）

活動目標

- ①孤立しがちな高齢者の心配ごとや、どのように生活をしていきたいかを把握する
- ②住民が必要と感じている情報を把握する。
- ③近隣者で顔の見える関係作りを行う
- ④多世代交流やICT活用による多様で多層的繋りづくり
- ⑤圏域内のコミュニケーション手段強化



活動目標の達成状況（結果評価）

- ①②③天神ポッチャの会、貫井住宅での認カフェとさくら体操サークル、運営支援。／①②③サロンリーダー連絡会を二層協議体の場として活動活性化や男性参加などの意見交換・課題検討開催。／①②③応援マップ発行に伴う活動調査実施。／④⑤包括ニュース定期発行と公式LINEアカウントによる情報発信。住民、利用者、関係機関との定期配信で包括周知を進める。

手段	R4	R5	R6	結果
①②自治会・町会、通いの場、総合相談などでニーズを把握する。				サロン連絡会や貫井住宅役員と協議体を重ね、スカイコーポラス福祉専門委員会に参加。その他、通いの場訪問や自治会役員・民生委員などと連携しながら情報把握を行った。把握した中でのニーズ（スマホに関する相談や、ちょっとした体操をしたいなど）に対し、包括は情報提供や住民主導の活動の中での後方支援を行っている。
⑤みなみ包括ニュースの定期発行。圏域内配布し、住民や地域の情報ツールとして継続発行。LINEやZoomなどのオンラインツールの並行活用				包括ニュースの自治会・町会、関係機関等への隔月回覧依頼で訪問し連携づくりを継続して実施。令和6年10月から年4回発行に変更。公式LINEでも地域情報や包括ニュースを情報発信(登録者数338名R7.4.11時点)
④⑤住民や通いの場などへの研修・会合・学びの場づくりや情報提供を行う。その他、関係機関や工学院など地域連携を状況に応じ順次再開継続する。 ※必要に応じITC等を適宜活用。				地域リハビリテーション活動を活用（通いの場24か所にリハビリ職を派遣）し予防啓発活動実施。サロン連絡会（4サロン合同）のノルディックウォーキングを実施した。／工学院は未だ再開のめどは立っていない。光明第二保育園のイベント周知やフェスタの参加等で地域連携を継続している。
①②③④小規模での話し合いの場（二層協議体・個別地域ケア会議）を行い、共通の課題を検討する。				年4回、サロン連絡会にて課題の共有・連携して課題への取り組み（お元気サミットへの参加）を実施。／四小さくら体操の会にて二層協議体を実施し、会の継続のための話し合いの場を住民主体で行うことができた。
①②③④新規通いの場の立ち上げを支援する。通いの場の連携(ネットワークや連絡会)づくりを支援する。				自治会、JKK、包括が協力し貫井住宅で認カフェ定期開催。／民間事業者による坂下認カフェは立ち上げ支援を行い発足したものの、民間事業者の意向もあり令和7年3月末を持って終了となった。／貫井住宅住民中心のさくら体操の会は自主的に継続中。／涼風デイの地域貢献活動で始まったポッチャの会自主化支援R6.4より自主開催、継続中。
①②アンケート、通いの場訪問、総合相談、二層協議体などを通して男性の社会参加課題の把握				集まりへの随時参加ニーズ把握から、包括職員が個々に訪問。個別対応による情報提供や支援に移行。サロン連絡会や個別のサロン訪問においてもニーズ把握実施。
①②民生委員さんとの連携。同行訪問での実態把握。町別協議会への参加し、75歳、80歳訪問での1人暮らしの方ニーズを把握。				同行訪問は民生委員からの情報提供があった際に実施。貫井南町町別協議会・前原町町別協議会への出席。圏域内の全民生委員へ包括ニュースの定期郵送することで、包括へ情報提供しやすい関係づくりにつなげている。

※ 活動目標とは：ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えられる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※ 手段とは：この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

令和7年度 小金井市地域課題分析・評価シート（みなみ エリア）

I. 地域課題と考えられる課題

- ① 【総】【小】孤立しがちな高齢者（※）をインフォーマル支援にどうつなげるか （※）閉じこもりがちな独居・高齢世帯
- ② 【総】【小】【他】ボランティアなどの活動を何かやりたいと思ってもどこに聞いたら良いかわからない。情報がいろんなところにあってどれを見れば良いのかわからない。
- ③ 【総】地域住民で認知症と思われる方がいても、どう対応したら良いのかわからない。
- ④ 【小】【他】既存の地域活動を行うグループ内で次を担う方がいない。



地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

根拠情報

[二]：ニーズ調査 [小]：小地域ケア会議・2層協議体
[個]：個別地域ケア会議 [総]：総合相談
[他]：その他（懇談会など）



II. 考えられる背景（高齢者等要因）

- ① ：地域でどのような活動をやっているのかわからない
 誰に聞いたら良いかわからない
- ①② ：どこに有効な情報があるのかわからない、
 情報がありすぎて精査する力がない
- ②③ ：困りごとに対して有効な情報が分からない
- ①②③ ：多様な情報手段への対応能力の低下
- ④ ：地域活動に参加したいがリーダー的役割を担いたくない。
 責任を負いたくない、家族のことなどで忙しい



III. 考えられる背景（環境要因）

- ① ：退職後の役割や生きがいの消失
 核家族化や未婚増加など、独居や高齢世帯の増加
 近隣住民との関係の希薄化
- ①②③ ：情報過多の中で必要な情報の集め方がわからない
 社会の多様化に加えコロナ禍後の個別化が進んでいる
 社会資源へのアクセス機会低下
- ④ ：リーダー的役割へのイメージ
 （「責任が伴う」「いろいろとお世話をしないとイケない」）

※ 地域課題とは：地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和7年度 小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（みなみ エリア）

活動目標

- 【A】孤立しがちな高齢者の心配ごとや、どんなことをやりたいかを把握し、必要な支援につなげる（課題①）
 【B】住民が必要と感じている情報を把握しまとめ、情報提供できる仕組みをつくる（課題①②③）
 【C】近隣者で顔の見える関係作りを行う（課題③）
 【D】多世代交流やICT活用による多様で多層的なつながりづくり（課題①③④）
 【E】圏域内のコミュニケーション手段強化（課題①④）



活動目標の達成状況（結果評価）

手段	R5	R6	R7	結果
【A】【B】自治会・町会、通いの場、民生委員、総合相談などで必要に応じてアンケートまたは聞き取りを行い、ニーズを把握する。				
【A】【C】【D】【E】民生委員や自治会役員と連携し、地域活動につなりたい方や地域活動を担う存在の人材発掘を行う。				
【A】【B】【C】【E】小規模での話しあいの場（二層協議体・個別地域ケア会議）を行い、地域課題を検討する。				
【B】【D】みなみ包括ニュースの定期発行を行い、住民や地域の情報ツールとして継続する。ケアマネージャーなどの関係者や家族にも圏域の情報が届くようLINEを活用する。				
【B】【C】【E】住民や自治会、通いの場などへ向けて、学びの場づくりや情報提供を行う。また、必要に応じて後方支援を行う。 例）認知症サポーター養成講座やお金の管理啓発講座、スマホ相談会の実施			 昨年までの手段に具体例を追加して実施	
【B】【D】地域デビューガイドを活用し、適宜情報提供を行う。				
【B】【C】【E】応援ブック・マップに掲載しているグループの最新情報の更新、掲載されていないグループの情報を収集しまとめ、みなみ包括内だけでなく情報を必要としている地域住民や関係者に共有できるような仕組みを検討し作成する。具体例）MCS等を活用して、関係者間で最新の情報を更新しやすくする。	 情報収集は継続して行っている		 まとめて共有する仕組み作りを行う	

※ 活動目標とは：ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えらえる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※ 手段とは：この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

令和6年度 小金井市地域課題分析・評価シート（ひがし エリア）

I. 地域課題と考えられる課題

1. 小 総 必要とされる情報が多岐にわたる。
(ペット・見守り・生活支援等)
2. 小 総 生活に係るちょっとした困り事がある。
即時対応を望む相談がある。

根拠情報

- ニ： ニーズ調査 小： 小地域ケア会議(2層協議体)
個： 個別地域ケア会議 総： 総合相談
他： その他（懇談会）

地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

1. 多様な相談があり、情報発信を継続した。また情報整理を行い、情報が得やすい配架・工夫を行った。
2. ちょっとした課題に対して解決策は見出せていないが、ちょっとした困りごとに対する自費サービスが創出されてきている。情報の整理、発信を行うことが必要と思われる。

II. 考えられる背景（高齢者等要因）

1. 高齢期における困りごとが多様化している。
 - ・ 知りたい情報、相談先が分からない。
 - ・ もともと、情報を知らない。
 - ・ 情報収集の方法が限定される。（口コミや紙媒体）
2. 高齢者のひとり暮らし（又は夫婦のみ）、健康不安や体力低下。

III. 考えられる背景（環境要因）

1. 情報の整理、把握ができていない。
包括認知度が上がり、相談件数が増加している。
(近隣、自治会からの相談)
2. 住環境面が課題となることがある。
情報（サービス）の周知が必要。

※ 地域課題とは：地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和6年度 小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（ひがし エリア）

活動目標

- 1.包括の周知及び情報発信として情報誌配布やLINE配信を継続する。
- 2.活動団体の運営支援や活動団体を訪問し関係性を構築する。
- 3.2層協議体を開催、参加する。
- 4.包括全体で総合相談等から課題抽出を行う。

活動目標の達成状況（結果評価）

- 1.継続した情報発信を行うことで地域活動へ繋がった声も上がっている。
- 2.随時活動団体へ訪問し運営支援を行った。地域住民（保育園児との交流）とのマッチング相談をうけ、高齢者と園児との交流の機会を設けた。
- 3.2層協議体を開催した。自主化に向けた話し合いにより次年度より自主運営（部分的にサポート）に至った。個人課題抽出から地域課題へ転換し、自主グループの立ち上げを（2層協議体を通じて）行った。



手段	R3	R4	R5	R6	R7	結果
①応援ブック・マップ、ひがし包括情報紙の配布・配架及び活用を行う。LINEによる配信。自治会・町会等から依頼があれば出張対応をする。						①継続した情報発信を行った。 本年は町会からの依頼はなかった。
②活動団体を訪問し、顔の見えるつながりを継続する。運営支援を行う。						各活動団体の訪問を継続した。団体の依頼に応じて訪問やマッチング等を行った。
③2層協議体の開催、参加する。 横のつながりの機会を設ける。						2層協議体を開催した。 団体毎の顔合わせの機会は今後検討したい。
④総合相談等から課題抽出を行う（抽出作業の確立）。入力・検討の場を定期開催する。 情報整理の方法を検討する。						所内課題抽出が定着しつつある。 情報整理、資料配架の工夫を行い、情報が得られやすい環境が整えられた。

※ 活動目標とは：ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えられる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※ 手段とは：この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

令和7年度 小金井市地域課題分析・評価シート（ひがし エリア）

I. 地域課題と考えられる課題

1.   生活に係るちょっとした困りごとがある。
郵便を出しに行けない等。けが等により一時的な支援を必要とする方がいる。
2.  地域の中に継続が難しくなりつつある団体や閉鎖する団体がある。



地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

根拠情報

: ニーズ調査

: 小地域ケア会議(2層協議体)

: 個別地域ケア会議

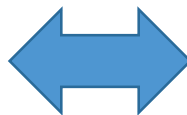
: 総合相談

: その他（懇談会）



II. 考えられる背景（高齢者等要因）

1. 高齢者のひとり暮らし（夫婦のみ）、健康不安や体力低下。
2. ・リーダーや主になり活動を担う方の不足
・参加者の高齢化により、通うことが困難になる。



III. 考えられる背景（環境要因）

1. 住環境面が課題となることがある。
身近に頼れる人がいない。
2. ・活動に対しての支援の手不足。
・徒歩で通える範囲での居場所の減少。

※ 地域課題とは：地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和7年度 小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（ひがし エリア）

活動目標

- 1.包括の周知及び情報発信として情報誌配布やLINE配信を継続する。
- 2.活動団体の運営支援や活動団体を訪問し関係性を構築する。
- 3.2層協議体を開催、参加する。
- 4.包括全体で総合相談等から課題抽出を行う。
- 5.新規居場所の立ち上げ



活動目標の達成状況（結果評価）

手段	R3	R4	R5	R6	R7	結果
①応援ブック・マップ、ひがし包括情報紙の配布・配架及び活用を行う。LINEによる配信。自治会・町会等から依頼があれば出張対応をする。						
②⑤活動団体を訪問し、顔の見えるつながりを継続する。運営支援を行う。						
③総合相談等から課題抽出を行う。入力・検討の場を定期開催する。						
④⑤2層協議体の開催、参加する。新規居場所の立ち上げや運営支援を行う。						

- ※ 活動目標とは：ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えられる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。
- ※ 手段とは：この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

令和6年度 小金井市地域課題分析・評価シート（にし エリア）

I. 地域課題と考えられる課題

- ①（総）外出自粛によりADLが低下してきている。
- ②（他）スマホへの興味・関心が薄く、活用できていない。
- ③（個）歩いて行かれる距離に多様な活動の場が少ない。
- ④（二）男性が気軽に参加できる社会資源が少ない。



地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

- ①外出の機会は戻りつつあるが、ADLの向上までは至っていない。
- ②スマホを学びたいと思う高齢者は多いことがわかった。
- ③活動場所がなかった貫井北町5丁目に、「ぬくい温ぬくサロン」が立ち上がった。
- ④サロンに参加している男性が、別の男性を誘えるような社会資源の開発が必要。

根拠情報

二 ニーズ調査

小 小地域ケア会議（2層協議体）

個 個別地域ケア会議

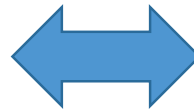
総 総合相談

他 その他（懇談会）



II. 考えられる背景（高齢者等要因）

- ①コロナ期間中に体力・気力が低下してしまった。
- ②地域資源の情報を得るための手段を知らない。
- ②スマホでは電話とメール以外の使い方を知らない。
- ②スマホの使い方を気軽に質問したいのに、質問できない。
- ③行動範囲が狭い。
- ④男性の社会参加率が低い。



III. 考えられる背景（環境要因）

- ①コロナ感染予防から、外出の自粛。
- ②情報を得るツールがわからない。
- ②スマホを学べる環境が圏域内にない。
- ③活動できる施設などが少ない。
- ④社会資源を把握しきれていない。

※ 地域課題とは：地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和6年度 小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（にし エリア）

活動目標

- ①地域情報の発信をしていく。
- ②多様な社会参加の場（居場所等）となり得る資源を開発する。
- ③2層協議体を開催し、地域課題について検討する。
- ④男性が興味・関心を持って参加できる社会資源を開発する。

活動目標の達成状況（結果評価）

- ①LINEは、週1～2回のペースでの発信を行った。
- ②地域住民や他機関と協働し、社会参加の場作りに取り掛かり始めた。
- ③サロン等の後継者問題が明確になった。
- ④新たに立ち上げるサロンが男性の居場所にもなるように、R7年度は取り組みたい。

手段	R5	R6	R7	結果
①にし包括支援センターだよりを年4回、LINEで情報提供する。		→		高齢者に有益と思われる情報をLINEで都度発信した。
①応援ブック・マップを、高齢者向け講座開催時に参加者に向けてPRする。		→		応援ブック、マップを圏域内の掲載団体、居宅介護支援事業所、公民館等に配布、設置依頼した。
②③④地域福祉コーディネーターと協働し、活動支援や資源開発を行う。		→		地域福祉コーディネーターと協働し、スマホちょこっと相談会の開催や新しいサロン立ち上げ準備を行った。
②③④新たな活動団体を把握し、活動中の団体も合わせて関係性を構築する。		→		圏域内の活動団体を訪問し、活動の様子や雰囲気把握を行った。必要に応じ個別相談対応とした。
①②④スマホミニ講座・相談会(LINE活用講座含む)を開催する。		→		スマホサポーターとの協働で実施することができなかったが、地域福祉コーディネーターと協働して、スマホちょこっと相談会を実施した。
②④男性が多く参加する活動団体を把握し関係性を構築する。		→		圏域内の新たな活動団体を3団体把握した。そのうち1カ所は男性の参加率が高い団体だった。

※ 活動目標とは：ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えられる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。

※ 手段とは：この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。

令和7年度 小金井市地域課題分析・評価シート（にし エリア）

I. 地域課題と考えられる課題

- ①（二）近くにスマホを学べる必要がある。
- ②（二）サロンリーダーの継承支援の必要性がある。
- ③（二）体操以外の活動の場が少ない。
- ④（他）男性が参加しやすい社会資源が少ない。

地域課題の変化（結果評価）【年度末に記載】

根拠情報

二 ニーズ調査

個 個別地域ケア会議

他 その他（懇談会）

小 小地域ケア会議（2層協議体）

総 総合相談

II. 考えられる背景（高齢者等要因）

- ①スマホ操作について気軽に聞きたいが、出来ずに困っている。
- ②リーダー高齢化と後継者不足。
- ③さくら体操以外の活動場所も知りたい。
- ④男性の社会参加率が低い。

III. 考えられる背景（環境要因）

- ①家族に聞けば解決できる程度のことだが、近くに聞ける人がいない。
- ②リーダー候補者の発掘ができていない。
- ③地域資源の情報収集不足。
- ④男性の社会参加について、ニーズ把握が不十分。

※ 地域課題とは：地域の複数の人々（将来的に複数になる可能性が高い場合も含む）に普遍的な影響を及ぼすと考えられ、社会的に対応する必要があると合意される生活課題

令和7年度 小金井市地域課題対応活動計画・評価シート（にし エリア）

活動目標

- ①情報発信の継続。
- ②圏域内のサロン等でスマホ相談会を開催する。
- ③リーダー同士の交流の場の検討する。
- ④体操以外の活動の場の立ち上げ支援。
- ⑤男性参加を促しやすい社会資源の発掘。

活動目標の達成状況（結果評価）

手段	R6	R7	R8	結果
①にし包括支援センターから高齢者に有益と思われる情報を都度、LINEで発信する。				
①高齢者向け講座等の開催時「お金の困りごと」「応援ブック」「マップ」をPRする。				
②④⑤地域住民や地域福祉コーディネーターと協働し、活動支援や資源開発を行う。				
③他包括の活動を参考に、リーダー交流会について検討。				
⑤男性が多く参加する活動団体を把握し、関係性を構築する。				

※ 活動目標とは：ⅡとⅢを背景とする地域課題と考えられる課題Ⅰを解決するために、活動すべきだと考えられること。
※ 手段とは：この活動目標を達成するための具体的な手段・方法。